

科学教育と女性



植物病理学実験室における本間ヤスと宮部金吾教授(1920年代) 北海道大学植物園所蔵

2026
11/28(土)

13:30~17:00(開場13:00)

参加無料

北海道大学

人文・社会科学総合教育
研究棟 W409室
札幌市北区北10条西7丁目

対面とオンラインにて開催します。
オンライン参加のみ事前申込が必要です。
リンクまたはQRコードからお申込みください。

会場定員:80名

オンライン定員:100名

申込締切:11月26日(木)17時迄



申込フォーム

<https://forms.gle/ET2gMxiNAiSz9fTr9>

日本では、理工系分野で学ぶ女子学生や理工系分野の女性研究者の比率が極めて低い水準にあります。近年、理工系分野の女子学生や女性研究者を増やすために様々な取り組みがなされていますが、思うように成果が上がっていません。とはいえ、戦前・戦中においても理工系分野の女子学生や女性研究者は皆無だったわけではありません。北海道大学も帝国大学時代に理学部・農学部で女子学生を受け入れた実績を持っています。また、第二次大戦中には、科学技術人材の不足に対応するために、理工系分野で学ぶ女子学生を増やそうとする試みもありました。本シンポジウムでは、近代日本の歴史をふまえて、科学教育と女性の関係について考えてみたいと思います。

講演

戦時期日本の女性「科学戦士」養成

中原 理沙(なかはら りさ)
大阪大学国際機構特任助教

北海道帝国大学に進学・研学した女性たちを訪ねて

山本 美穂子(やまもと みほこ)
北海道大学大学文書館特定専門職

コメンテーター

広瀬 玲子
(ひろせ れいこ)
北海道情報大学名誉教授

司会・企画

辻 智子
(つじ ともこ)
北海道大学大学院
教育学研究院教授

企画

水溜 真由美
(みずたまり まゆみ)
北海道大学大学院文学研究院教授、
応用倫理・応用哲学研究教育センター
運営委員

主催/北海道大学大学院文学研究院 応用倫理・応用哲学研究教育センター

共催/北海道大学大学院教育学研究院



北海道大学
HOKKAIDO UNIVERSITY



お問い合わせ

Email: caep@let.hokudai.ac.jp
URL: <http://caep-hu.sakura.ne.jp/>
X: @caep_hu



科学教育と女性

講演要旨

公開シンポジウム

フェスタ
国立大学2026

戦時期日本の女性「科学戦士」養成

戦前の日本において、女性の科学教育機会は限定的であった。ところが、第二次世界大戦による労働力不足、特に科学技術人材不足の深刻化は、従来の女子高等教育方針の再考を促すこととなった。次第に、新聞には「栄養戦士」や「女子電波戦士」の文字が踊るようになっていく。戦時期日本は、科学戦における女性の役割をどのように構想したのか。また、女性に新しい科学教育機会の扉は開かれたのか。本報告では、各地の大学に残された戦時期の史料をもとに、科学教育と女性の関係を考えてみたい。

中原 理沙

なかはら りさ

専門は高等教育史。アイオワ大学大学院教育学研究科博士課程修了(Ph.D.)。博士論文“‘And We Need You Now!’: Comparative Analysis of Women’s Science Education in the U.S. and Japan During World War II” (2025年)でComparative and International Education Society HE SIGの博士論文賞を受賞。その他論文に「大正期の奈良女子高等師範学校における理科系修学旅行」(『科学史研究』63巻312号、2025年)などがある。

北海道帝国大学に進学・研学した女性たちを訪ねて

女性の“北大生”が誕生したのは1918年、北海道帝国大学農科大学への「全科選科生」としての加藤セチの入学である。その後、「学部学生」としての女性の入学が、理学部で1930年に、農学部で1943年に二次募集の枠組で認められる。一方、1936年に本間ヤスが農学部で博士号を取得した後、医学部で1938年に、理学部で1946年に女性へ博士号が授与された。本報告では北海道帝国大学に進学・研学した女性たちを紹介し、研究分野や時期でどのような特徴が見られるのか、写真・文書・手紙などの資料を通して考えてみたい。

山本 美穂子

やまもと みほこ

北海道大学大学文書館の専従スタッフ(特定専門職)として、札幌農学校(1876年開校)以来の北海道大学の歴史に関わる文書・資料の収集・保管・調査等を担当している。専門は大学史、近代日本女子高等教育史。『北大と北大生の150年』(北海道大学出版会、2026年)では「女性の入学」「男女共学の道のり」「女性の教授の誕生」等のコラムを執筆、『写真集北大150年』、『北海道大学百五十年史』等の大学沿革史編集にも携わっている。

〈コメンテーター〉

広瀬 玲子

ひろせ れいこ
(北海道情報大学
名誉教授)

専門は近代日本女性史。主著に『帝国に生きた少女たち一京城第一公立高等女学校生の植民地経験』(大月書店、2019年)。『植民地朝鮮における愛国婦人会一在朝日本人女性と植民地支配』(有志舎、2023年)。共著に『北の命を抱きしめて』(ドメス出版、2006年)、『東アジアの国民国家形成とジェンダー』(青木書店、2007年)、『北海道社会とジェンダーー労働・教育・福祉・DV・セクハラの実態を問う』(明石書店、2013年)、『제국과 식민지의 주변인 제조일본인의 역사적 전개』(보고사、2014年)、『帝国日本の移動と動員』(大阪大学出版会、2018年)、『熊谷市史調査報告書 荻野吟子ーその歩みと出会いー』(熊谷市、2023年)、『労働をめぐるシスターフッドープロレタリア文学・フェミニズム・労働研究』(北海道大学出版会、2025年)など。

司会・企画：辻 智子 (北海道大学大学院教育学研究院教授) 教育学、青年期教育論、女性史
つじ ともこ

企画：水溜 真由美 (北海道大学大学院文学研究院教授、応用倫理・応用哲学研究教育
みづたまり まゆみ センター 運営委員) 近代日本文学・思想史



北海道大学
HOKKAIDO UNIVERSITY



お問い合わせ

Email: caep@let.hokudai.ac.jp
URL: http://caep-hu.sakura.ne.jp/
X: @caep_hu